

# チューリップ通信

新潟市 胃内視鏡検診研究  
ニュースレター

「チューリップ通信」は  
新潟市の胃内視鏡検診の研究に  
ご協力いただいている方にお送りしている  
ニュースレターです

Vol.9

## 見出し

- \* 研究検診受診のご案内 .....1
- \* 新潟市の胃内視鏡検査 ...2-3
- \* お知らせ .....4

## 2回目、3回目の 胃内視鏡検査は受けましたか？

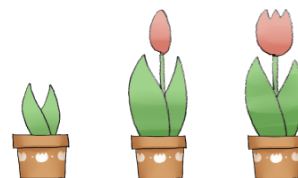
今年は、昭和 26 年 4 月 1 日から昭和 27 年 3 月 31 日生まれの方には、3 回目の胃内視鏡検査を、昭和 28 年 4 月 1 日から昭和 29 年 3 月 31 日生まれの方には、2 回目の胃内視鏡検査をご案内しています。

昭和 26 年生まれの方 739 人、昭和 28 年生まれの方 545 人が対象です。(辞退・転居等除く)

これまでも検査のご案内や予約をしてきましたが、まだ胃内視鏡検査を受診されていない方がいらっしゃいます。研究検診は 1 年おきに 3 回続けて、胃内視鏡を受診することをお願いしています。胃がん検診は 1 回の受診だけでは効果がありません。続けて受診することが大事です。

今年度の胃内視鏡検診は 3 月 31 日までとなります。お送りした予約票をお持ちになり、胃がん検診を受診してください。また、紛失などでお困りの場合には、再発行しますので、事務局にご連絡ください。

発行日 2017 年 2 月 17 日  
発行元 胃内視鏡検診  
研究事務局  
所在地 〒950-0914  
新潟市中央区  
紫竹山 3-3-11  
(新潟市医師会内)  
TEL 025-247-8900  
FAX 025-247-8836  
E-mail kenshin@esgcr.jp  
URL <http://www.esgcr.jp/>



## 新潟市の胃内視鏡検査

### 胃がん検診の歴史

胃がん検診は、日本が開発した検診です。X線検査は1960年代に開発され、宮城県などでバス検診が行われるようになりました。その第1号車が写真1です。当時は、進行がんになってようやく病院を受診することが多く、その時点では治療ができない場合も多々ありました。胃がん検診は、医師が現場に出向いて、より早い段階で胃がんを見つけることが目的でした。

写真2は最初に開発されたX線撮影装置です。当時は撮影の精度もそれほど高くはなく、またX線による被ばく量がかなりありました。

しかし、その後X線装置は改善され被ばく量は減少し、検査の精度も向上しました。

1970年以降、胃がん検診は全国に広まり、1983年には法律により全市町村で行われるようになりました。新潟市でも今日に至るまで、胃X線検査が行われています。

### 新潟市の胃がん検診

新潟市では、長い間、胃X線検査を行ってききましたが、2003年から新たな検診として胃内視鏡検査を導入しました。

初年度の受診者は8,122人でしたが、現在では年間4万人以上の市民が胃内視鏡検診を受診しています。一方、胃X線検査の受診者は年々減少し、25,000人以下となっています。

### 胃内視鏡検査の仕組み

胃内視鏡検査は、市民の方が胃がん検診の予約をして、診療所や病院で検査を受けるところから始まります。

研究の説明会でもお話ししていますが、内視鏡検査には、口からと鼻からの2つのタイプがあります。一般的には表のような特徴がありますが、鼻からの胃内視鏡検査も改善されつつあります。



写真1: 我が国初の胃がん検診車「日立号」(宮城県対がん協会)



写真2: 最初に開発されたX線撮影装置(宮城県対がん協会)



写真3: がん征圧の記念切手(1966)

		経口	経鼻
先端の直径		8~10 mm	5~6 mm
嘔吐感		あり	ほとんどない
所要時間	前処置	約10分	約15分
	検査	約5~10分	約10~15分
挿入時のつらさ		気になる	ほとんど気にならない
視野		広い	狭い
組織採取		できる	できる
がんやがんの疑いのある病変の切除		できる	できない(原則)

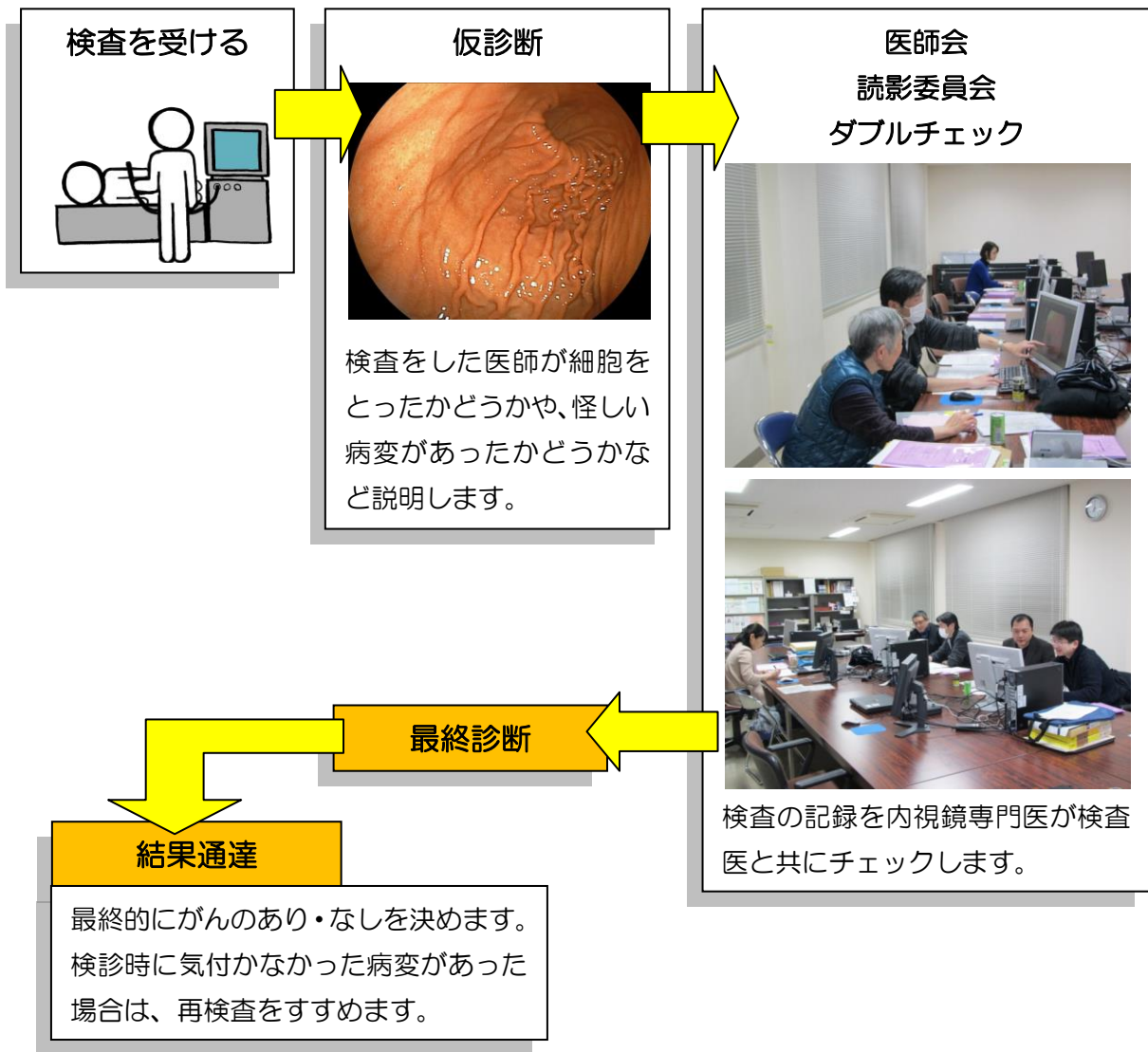
検査が終わったあと、市民の方々に結果が届くまでに、どのようなことが行われているのでしょうか。

検査の時に撮影した写真は、新潟市医師会に持ち込まれます。そこで、胃内視鏡検査を専門とする医師が、もう一度胃内視鏡検査の写真を点検します。最初の胃内視鏡検査ではわからなかった小さな胃がんが、発見される場合もあります。このように、検査をした医師だけが判断するのではなく、もう1人の専門医が再検討するシステムを、ダブルチェック方式といいます。

新潟市は、全国に先駆けて胃内視鏡検査を行ったばかりではなく、優れたダブルチェックシステムをつくりました。

ダブルチェックにより、新たな病変が約5%見つかります。その結果、検査が終わったあとに「異常なし」と説明された場合でも「再検査」が必要になる場合があります。このため、胃内視鏡検査が専門ではない、かかりつけ医のところで検査を受けても、確かな診断が受けられます。また、ダブルチェックには検査医も同席することから、検査医の技術も向上します。

新潟市のシステムは全国から注目されており、これから胃内視鏡検査を始めようとしている全国の市町村から視察の申し込みが殺到しています。





## お知らせ

### ミニ講演会のお知らせ

日時: 平成 29 年 3 月 4 日(土)  
10:00~12:00 (受付 9:30)  
会場: 新潟市総合保健医療センター2F 講堂  
新潟市中央区紫竹山 3 丁目 3 番 11 号  
内容: 「みんなで受けよう!大腸がん検診」  
濱島 ちさと  
(国立がん研究センター  
社会と健康研究センター 医師)

◆便検査による大腸がん検診は、国際的に評価が確立しています。しかしまだこの検査の価値を知らない方がたくさんいます。

新潟市では、大腸がん検診をわずかな負担で受けることができます。

お問い合わせ: 胃内視鏡検診研究事務局  
(9:00~16:00)  
電話: 025-247-8900  
メール: kenshin@esgcr.jp

### ホームページのご案内

ホームページでは、次年度以降も皆様の検診のご案内を続けていきます。

ご意見・ご質問がありましたらお寄せください。

また、「チューリップ通信」のバックナンバーも PDF ファイルでご覧いただけます。

研究や検診についてのご意見・お問い合わせはメール(kenshin@esgcr.jp)でも受け付けています。

胃内視鏡検診研究ホームページ

<http://www.esgcr.jp/>

### チューリップ写真募集

チューリップ通信では、紙面を飾るチューリップの写真を募集いたします。ご自慢の写真を電子画像(オリジナルを加工した画像も可)、あるいは焼き付け写真にて、メール、郵送等で事務局までお送りください。採用させていただいた方には、図書カード(500 円)を進呈いたします。皆様からのたくさんのご応募をお待ちしております。

なお、採用された作品は紙面に合わせて加工等をさせていただく場合がございます。また、ご応募いただいた作品の返却はいたしません。チューリップ通信掲載以外の目的で使用することはありません。

